

# 種子屋久通信

発行：熊毛地域青少年育成推進協議会  
住所：西之表市西之表7590番地  
(熊毛支庁総務企画課内)  
TEL：0997-22-0498  
FAX：0997-23-1161

## 平成30年度 第40回 少年の主張鹿児島県大会

第40回少年の主張鹿児島県大会が8月1日、鹿児島市の甲東中学校で開催されました。この大会は人格を形成するうえで重要な時期にある中学生が日常生活の中で考えていることを広く県民に訴えることにより、社会の一員としての自覚を促すとともに、中学生の健全育成に対する県民の理解を深めるために始められたものです。



堂々と発表をしている三神さんの様子

今年は53中学校から4,622点の応募があり、校内審査と一次審査を経て選ばれた10名の中学生が発表を行いました。

熊毛地区からは屋久島町立安房中学校2年生 三神 茜さんが「『よりよい学校』を目指して」と題して発表を行い、優良賞を受賞しました。



## 鹿児島県青少年保護育成条例に基づく立入調査を実施

県では、青少年を取り巻く環境を整備し、青少年の保護と健全な育成を図ることを目的に、夏の「<sup>ふるさと</sup>郷土に学び・育む青少年運動」の一環として、立入調査を実施しています。管内では、屋久島地区を7月18日、種子島地区を8月14日、8月16日に警察署、市町教育委員会、青少年コーディネーター等

の協力をいただきながら書店やコンビニエンスストア、ビデオ店、刃物取扱店、玩具取扱店、カラオケボックス等、69店舗について調査しました。商品の陳列やステッカー掲示など一部改善をお願いした店舗もありましたが、調査結果は概ね良好でした。

## 《平成 30 年度「家庭の日」作品コンクール審査結果》

県と青少年育成会議では、心豊かな青少年育成のために明るく円満な家庭づくりの実践と昭和 40 年から続く毎月第 3 土曜日の「家庭の日」の普及・啓発活動の一環として、小・中学校を対象に絵画・ポスター・標語の募集をしました。県内の小・中学校・特別支援学校 570 校から下記の通り応募がありました。たくさんの応募ありがとうございました。

### 【作品応募数】

項 目	絵画の部	ポスターの部	標語の部
熊毛地区	29 点	4 点	36 点
県 内	1, 260 点	269 点	17, 489 点

## 入賞おめでとうございます

熊毛地区からは、絵画の部 優秀賞 1 名、優良賞 2 名、努力賞 2 名、標語の部 優良賞 1 名、中努力賞 5 名、優秀学校賞 1 校が入賞し、賞状と副賞（図書カード）が贈られました。

### 《 絵画の部 》

#### ☆☆ 優秀学校賞 ☆☆



見事優秀学校賞に輝いた中種子町立星原小学校全校児童



こうえんであそんだよ

#### ☆ 努力賞 ☆

中種子町立星原小学校

2年 いけべ だいき  
池邊 太希さん



毎月第 3 土曜日は「青少年育成の日」です。

(青少年は、未来の社会を創造する原動力です。)



毎月第 3 日曜日は「家庭の日」です。

(家庭は、子どもの人格形成の基盤です。)





かぞくでむしとり



かぞくでかいてんずし



おにわにたくさん実つたよ!



にんじんトントントン

☆ 優秀賞 ☆

中種子町立納官小学校

1年 ひご としあき 肥後 寿明さん

☆ 優良賞 ☆

中種子町立納官小学校

1年 のむら こうた 野村 洸太さん

☆ 優良賞 ☆

中種子町立納官小学校

2年 はま かんたろう 濱 寛太郎さん

☆ 努力賞 ☆

屋久島町立小瀬田小学校

3年 さいとう たかお 齋藤 崇生さん



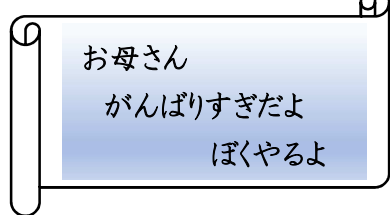
野添校長先生

(左) 野村さん (中央) 濱さん (右) 肥後さん



齋藤さん

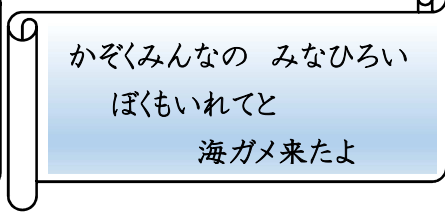
《 標語の部 》



☆ 優良賞 ☆

西之表市立伊関小学校

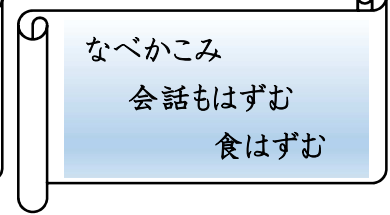
6年 おきた ゆいと 沖田 唯人さん



☆ 努力賞 ☆

西之表市立伊関小学校

2年 かまくら そら 鎌倉 奏色さん

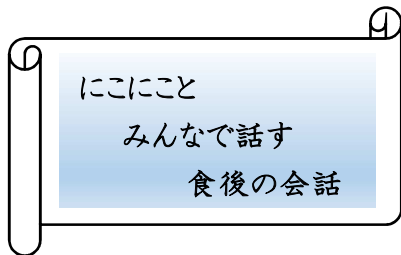


☆ 努力賞 ☆

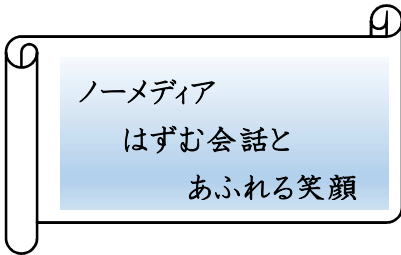
南種子町立大川小学校

5年 のだ さくらさん

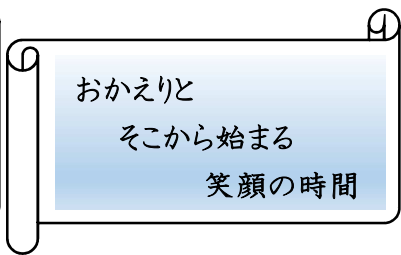




☆ 努力賞 ☆  
屋久島町立宮浦小学校  
6年 <sup>まなべ りん</sup> 眞邊 凛さん



☆ 努力賞 ☆  
屋久島町立安房中学校  
3年 <sup>かわさき らむ</sup> 川崎 麗夢さん



☆ 努力賞 ☆  
屋久島町立安房中学校  
1年 <sup>とくうら はじめ</sup> 徳浦 一さん

入賞作品展示のお知らせ

展示会場
県青少年会館
期間
平成31年3月23日(土)～5月31日(金)
展示内容
優良賞以上

※11月1日(木)から鹿児島県青少年育成県民会議HPでも公開しています。

不登校に関する支援者のための研修会

不登校に関する支援者のための研修会が8月28日(火)に学校、相談支援関係者等約400名が参加して、かごしま県民交流センターで開催されました。

講師の中野 澄氏は「不登校対策には2つの視点。教員の同僚性を生かした取組〔未然防止：集団指導〕、多職種(専門スタッフ・地域人材等)の連携・分担による取組〔継続的な不登校：個別支援・自立支援〕を充実させる必要があると話されました。

全ての児童生徒の「居場所づくり」と「絆づくり」の違いを理解し、バランスよく取り組むことが重要。個々の力でなく学年でかかわる、チーム学校で取り組むことが新規数を減少させ、魅力ある学校づくりにつながる」と訴えました。



育成活動等の紹介

【西之表市】

☆ふるさとまなび～隊

西之表市・市制施行60周年記念事業の生けばな展に先立ち、ふるさとまなび～隊のメンバー32名が第6回の活動として11月23日(金)に生け花体験を行いました。種子島華道団体の講師に、花器・剣山・ハサミ等の取扱について説明をしていただき、その後自分の好きな花を選び、それぞれのイメージで生けました。感性の豊かな子どもが多く、大人顔負けの作品もいっぱいありました。32名分の展示ブースもしっかり設けられ、西之表市いけばな展のパンフレットでも紹介されました。24日、25日(2日

間)、華道団体の作品と一緒に西之表市体育館に展示されました。



### ☆古田子ども会

古田子ども会では、10月27日(日)にふるさとの産業を学ぶ活動として、お茶工場の見学を行いました。子ども会メンバー9名が参加しました。種子島茶生産組合の下嶋さんから日本茶の種類や茶の葉の加工の仕方(発酵させるか、させないか)の違いで、緑茶やウーロン茶・紅茶になること、番茶の製造工程等の説明がありました。



### ☆上西子ども会

上西子ども会では、10月14日(日)に開催された伊勢神社秋季大祭に、子ども会メンバー19名が参加し、奉納子ども相撲と表現(踊り)を披露しました。

奉納子ども相撲には14名が参加し、団体戦、個人戦と熱戦が繰り広げられました。しおさい留学生の1人は今まで裸足になることがなかったようで、土俵に上がるまで



その後実際に製造工程順に工場見学を行い、日頃飲んでいるお茶、ペットボトルのお茶の原料がどのように出来ているのかと真剣に観察し、学んでいました。この中から将来(後継者)に繋がれば頼もしい。子供達にとってとても貴重な体験活動だったと思う。



は足が痛いと言っていたが取り組みになると力強く対戦していました。留学中の限られた期間の中で、このような体験を通し地域の方との絆づくりができたと思う。踊りは息がぴったり合い素晴らしい表現で、ホーズが決まると会場内から大きな拍手と歓声で賑わった。



平成 30 年度  
鹿児島・岐阜県青少年ふれあい事業

この事業は、鹿児島・岐阜両県の青少年が相互交流活動を通じて、両県の深い歴史のかかわりあいを学ぶ中で、お互いの夢を語り合い、友情の絆を深めるとともに、異なる自然や生活、文化等を探訪し、豊かな感性やたくましい創造力を養うことにより、郷土に根ざした青少年活動の活性化を図り、もって、将来の鹿児島を担うたくましい青少年の育成に寄与することを目的に、今年も 7 月 27 日(金)から 7 月 30 日(月) 3 泊 4 日の日程で実施されました。

熊毛地区からは村添心愛さん(種子島高校 2 年生)が、県内の青少年 19 名とともに参加しました。



村添さんの感想文をご紹介します  
今年一番の成長点

私は、今回のふれあい事業で一つ大きな収穫を得た。それは、初対面の人とのコミュニケーションの取り方だ。事業に参加するにあたり、私の中の不安は大きなものだった。なぜなら、友人や知り合いが誰一人としていない、そんな状況に初めて突入するからだ。ただでさえ新しい出会いの少ない環境で育ってきた私は、うまく話題を引き出せるか、それを展開できるかを悩んで

いた。

事前研修の日がやって来て、「絶対、説明会の時の様な受け身にはならない！！自分から行くんだ。」と意気込んでいた。前回とは打って変わり、休憩時間に進んで名刺交換をし、鹿児島メンバーのあだ名も覚えることができた。

そしてついに、岐阜メンバーとの対面を迎えた。やはり初めは緊張もしたが、昨日の勢いをそのままに相手と仲を深めた。すぐにけいかとは打ち解け、隣で会話の進んでいなかった溜ちゃん、さくらペアに話しかけた。初めは小声で口数の少なかったさくらも 5 分後には一緒に笑っていた。こんな感じで 4 日間、多くの人と交流をし、私のコミュ力はグンと伸びた。自分で言うのもなんだが、本当に伸びた。半数ほどとはとても仲良くなれたが、あと半数とは深い話をできなかった。特に青年とは話すことができず、次回の課題ができた。

私のテーマであった「全員と友達になる」は達成できず次回に持ち越すことにした。一番の感想は「楽しかった！」だ。濃密な 4 日間が終わり、家に着いたらきつと疲れがドッと来るんだろうと思っていたが、私は底なしに元気だった。それくらい楽しかった。



歓迎夕食会や市内散策も、二人乗り自転車に挑戦したサイクリングも小劇風に発表したグループ討議も、生肉をある人につけてしまった最後の BBQ も、抱き合いながら別れを惜しんだ空港も全てが最高の思い出だ。

また来年待ち受けている出会いが楽しみだ。